

4月の支出(図書、備品、慶弔、飲食除く)

95,718円

情報公開の第一歩 政治資金を見えるようにします。

印刷代(月刊武松用紙代)	17,480円
交通費(駐車場、燃料代)	12,123円
通信費(折込代、携帯電話代)	66,115円
支出計 26/4/1~26/4/30	95,718円
収入 政務活動費	65,000円

市政を考える 月刊武松

発行日
26/5/7

第234号

20500部発行

たけまつ ただし
頒布責任者：武松 忠(市議会議員)

市議会議員の定数について 現在定数27人(欠員1) 議会改革推進委員会で協議中

次回の小田原市議会議員選挙まで1年を切りました。例年、改選前には議員定数について結論を出しますが、現在は議会改革推進委員会で協議が続いています。

■意見の集約と早期決断を

各会派で「定数減」「現状維持」「定数増」と意見が分かれています。私たちの会派は「1減」を表明していますが、どの主張にも相応の根拠があります。議論を尽くした上で、意見が変わらないのであれば、委員会として多数派の意向をまとめ、定数を変更する場合は早期に本会議で議決すべきです。

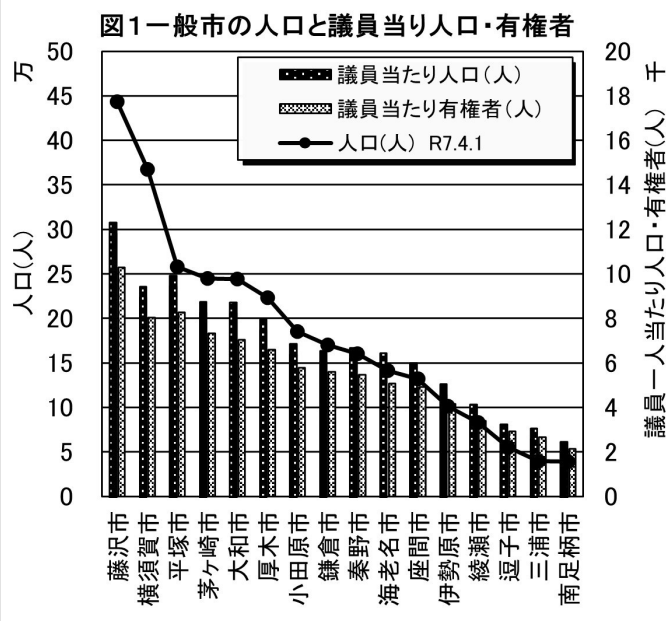
■県内7市が定数見直し・検討に着手

神奈川県内一般市のうち、定数見直しを予定しているのは藤沢市。検討中は横須賀市、茅ヶ崎市、小田原市、秦野市、海老名市、綾瀬市の計7市にのぼります。

表1 県内一般市の人口・有権者数・議員定数等

項目	人口 R7.4.1	有権者 R7.12.1	議員 定数	議員当 たり人口	議員当 たり有権者
藤沢市	443,488	370,551	36	12,319	10,293
横須賀市	367,698	313,293	39	9,428	8,033
平塚市	257,818	215,116	26	9,916	8,274
茅ヶ崎市	244,975	205,372	28	8,749	7,335
大和市	244,280	196,898	28	8,724	7,032
厚木市	223,014	184,815	28	7,965	6,601
小田原市	185,293	155,873	27	6,863	5,773
鎌倉市	170,034	145,553	26	6,540	5,598
秦野市	160,069	131,343	24	6,670	5,473
海老名市	141,440	111,760	22	6,429	5,080
座間市	131,893	108,124	22	5,995	4,915
伊勢原市	101,057	82,906	20	5,053	4,145
綾瀬市	82,787	68,095	20	4,139	3,405
逗子市	55,136	49,661	17	3,243	2,921
三浦市	39,545	34,710	13	3,042	2,670
南足柄市	39,022	34,220	16	2,439	2,139

■県内一般市の人口・定数・議員一人当たりの人口
表1・図1に県内一般市の人口・定数・議員1人あたりの人口比較を示します。



最大5倍の「格差」が生じている現状

議員1人が担当する市民数には、自治体間で大きな開きがあります。議員1人あたり約1.2万人を担当する藤沢市に対し、南足柄市は約2400人。人口・有権者数ともに約5倍の格差が生じています。

人口規模と定数の不均衡

議員定数は人口に必ずしも比例していません。横須賀市(定数39)は、藤沢市(定数36)より人口が約7.6万人少ないものの、定数は県内一般市で最多です。また、茅ヶ崎市・大和市・厚木市は人口規模が異なりますが、定数は28名で横並びとなっています。一方、人口5万人以下の三浦市や南足柄市では、定数は20名を下回っています。

裏面に続く

議員1人当たりの「重み」の違い

議員1人当たりの有権者数は、1票の価値や当選の難易度に直結します。藤沢市は1万人を超え、当選には多くの得票を要します。対して逗子市、三浦市、南足柄市は3千人を切っており、市民と議員の距離が物理的に近い環境にあると言えます。

平塚市と小田原市の比較

小田原市は平塚市より人口が約7万人少ないにもかかわらず、定数は小田原の方が1名多いという**逆転現象**が起きています。結果として小田原市の方が議員配置は手厚くなっていますが、平塚市の議員は小田原の議員の約1.4倍にあたる市民を担当している計算になります。

議員定数と市面積を比較

表2、図2は、県内一般市の面積順に市街化面積、定数、議員一人当たりの面積・市街化面積を示したものです。

■都市構造の違い

表2、図2より、神奈川県内一般市における自治体規模と議員定数の相関、および都市構造の違いが鮮明に浮き彫りとなっています。

まず、面積規模の格差が顕著です。小田原市や秦野市、横須賀市が100km²を超える広大な市域を持つ一方で、座間市や逗子市は20km²未満と、最大で約6.5倍の開きがあります。これに伴い、議員1人当たりが担当する面積も、南足柄市の4.82km²から座間市の0.80km²まで大きな幅があり、地方部と密集地での活動環境の差を示唆しています。

■都市化の状況と議員定数の考察

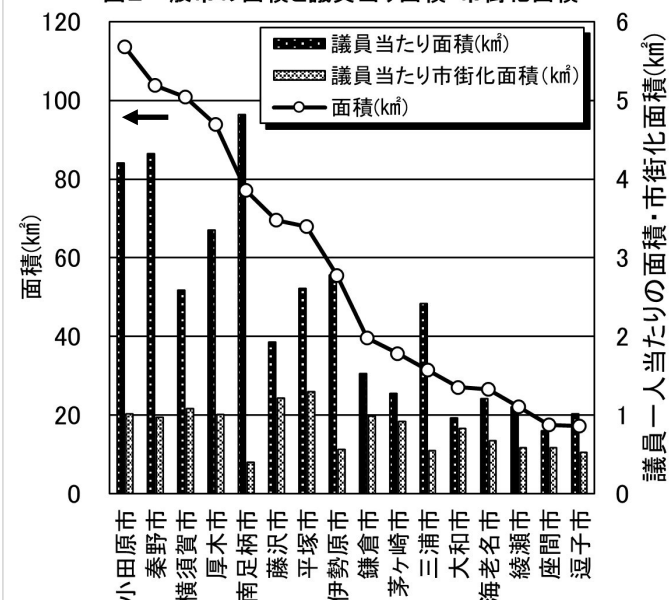
都市化の状況で見ると、藤沢市や茅ヶ崎市、大和市は総面積の大半が市街化されており、議員1人当たりの市街化面積も1km²前後と高い水準にあります。対照的に、南足柄市や三浦市、伊勢原市は市街化率が低く、自然環境や農地を多く抱える構造です。

全体として、面積の広さと議員定数は必ずしも比例しておらず、各市の歴史的背景や都市機能の集積度に基づいた独自の定数設定がなされていることが読み取れます。

表2 県内一般市の面積・市街化面積・議員定数等

項目	面積(km ²)	市街化面積(km ²)	議員定数(人)	議員当たり面積	議員当たり市街化面積
小田原市	113.60	27.52	27	4.21	1.02
秦野市	103.80	23.42	24	4.33	0.98
横須賀市	100.80	42.13	39	2.58	1.08
厚木市	93.83	28.29	28	3.35	1.01
南足柄市	77.12	6.39	16	4.82	0.40
藤沢市	69.56	43.74	36	1.93	1.22
平塚市	67.88	33.69	26	2.61	1.30
伊勢原市	55.56	11.35	20	2.78	0.57
鎌倉市	39.67	25.69	26	1.53	0.99
茅ヶ崎市	35.70	25.80	28	1.28	0.92
三浦市	31.44	7.19	13	2.42	0.55
大和市	27.09	23.21	28	0.97	0.83
海老名市	26.59	14.81	22	1.21	0.67
綾瀬市	22.14	11.75	20	1.11	0.59
座間市	17.57	12.96	22	0.80	0.59
逗子市	17.28	9.03	17	1.02	0.53

図2 一般市の面積と議員当り面積・市街化面積



議員定数と人口・面積を比較しました。今後さらに少子高齢化が進み、人口減を考えると、**議員定数を1つ減らすのが妥当ではないかと考えています。**

■お知らせ■

5月の議会報告会は、都合により中止します。



公式HP
月刊武松パナパナ他



X(twitter)
防災・感染症情報



facebook
日々の情報など



令和8年度
当初予算案の概要

